

# 最新鋭のコンテナターミナル機能を有した 常陸那珂港の利用により排出ガスを大幅に削減



常陸那珂港では、ガントリークレーンを備えた国際海上コンテナターミナルの整備が、北米定期コンテナ航路の開設に結びつきました。

航路開設後、ひたちなか市内にある牛乳パック会社は、横浜で行っていた原料のミルクカートン原紙の陸揚げを常陸那珂港に切り替えております。

横浜港まで年間3,600往復の陸上輸送を実施。

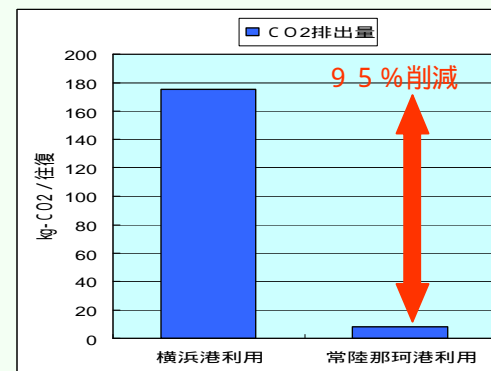
これにより、陸送距離がこれまでの20分の1の約8kmに短縮され、排出ガスの大幅な削減(95%)につながっています。

CO<sub>2</sub>排出量が630(t/年)から30(t/年)に削減。



## 北米定期コンテナ航路

北米西岸(バンクーバー・シアトル等)  
～常陸那珂～清水～横浜～東京～  
博多～釜山(韓国)～大阪～名古屋  
～清水～東京～北米西岸(バンクー  
バー・シアトル等)



## トラック1往復当りのCO<sub>2</sub>

### ・横浜港利用

- ・陸送距離: 167km
- ・CO<sub>2</sub>排出量: 175kg

### ・常陸那珂港利用

- ・陸送距離: 8km
- ・CO<sub>2</sub>排出量: 8.4kg